

令和3年度大分県立特別支援学校第三者評価【評価書】

学校名	大分県立中津支援学校		
重点項目	評価項目	評価の観点	評 価
学校の組織運営	1 校長のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> * 社会のニーズ等を踏まえた学校経営ビジョンの設定 * 学校目標、学校運営計画の適切な設定と教職員の共通理解 * 的確・適切なリーダーシップの発揮、教職員からの信頼 	校長のリーダーシップのもと、カリキュラム・マネジメントの深化を目指す運営方針、育成めざす児童生徒の指標（学部目標）等が適切に設定されており、主任等のミドルリーダーまで浸透した学校運営が行われている。今後も、全教職員への浸透を図るため活発な職員間の対話を期待する。
	2 組織的運営・責任体制	<ul style="list-style-type: none"> * 教育目標、学校運営計画との一致 * 組織的な運営・責任体制の整備、校務分掌の機能 * 幼・小・中・高の一貫性のある指導体制の整備 	校長の運営方針をミドルリーダーが理解し、他の教職員に対する指導・助言等を適切に行い、学部や分掌の運営を行っている。さらに、全教職員が、学校運営に参画するよう期待する。小・中・高の一貫性については、学校全体の取り組みとして、教職員の意思統一を図る取り組みが望まれる。
	3 服務監督・危機管理体制	<ul style="list-style-type: none"> * 内規、危機管理マニュアル等の適切な整備 * 事件・事故発生時の迅速で適切な対応 * 法令に則った医療的ケア実施体制の整備 	危機管理については、時系列で動きを表示するタイムライン（対応マニュアル）がよく整備されている。また、生徒からの改善事例を賞賛する機会が設けられており、環境への気づきを高める機会として活用されている点は、評価できる。
	4 家庭・地域との連携、情報提供	<ul style="list-style-type: none"> * 幼児児童生徒及び保護者の満足度や要望を把握する取組 * 学校ホームページの活用、学校便りの発行等による情報の伝達・公開の取組 	ホームページ・マスコミを活用し、情報の発信・公開がよくされており、アクセス数も増加している。また、地域住民との良好な関係が形成されており、地域交流やスクールサポーター、なのみ祭、地域クリーン活動などを活発にされている点は、評価できる。
	5 センターの機能	<ul style="list-style-type: none"> * 小・中学校等の要請に応じた巡回相談等への積極的取組 * 特別支援教育のセンターとしての特色ある取組 * 組織的に取り組む校内体制の整備 	地域の特別支援教育のセンターとして、校内体制はよく整備されている。今後も、地域の特別支援教育のセンターとして特色ある取り組みを行うことを期待する。
学習指導	1 授業	<ul style="list-style-type: none"> * 障がいの状態や特性、発達の段階等に応じた指導 * 一人一人の指導目標・方法の共通理解に基づいた実践 * 学習効果を高めるための外部専門家との連携等の工夫 * 幼児児童生徒の自主的・主体的な学習への取組 	児童生徒一人一人が自主的・主体的に学習に取り組んでおり、新しい取り組みとして高等部において、サービス系の作業種目の開発が示された。今後、地域との協働として展開されることを期待する。また、カリキュラム・マネジメントを通じた、教育課程の検証・改善や対話的な学びを通じた学習の深まりがある授業が望まれる。
	2 指導、支援のための計画の作成と活用	<ul style="list-style-type: none"> * チェックリスト等に基づく実態把握の実施 * 本人・保護者のニーズの把握、PDCAサイクルによる指導改善 * 保護者等と連携した教育支援計画の作成、長期的視点の支援 	児童生徒の学習意欲を高める観点別の目標と評価の実現を目指しており、保護者アンケートによる教育的ニーズの把握も行われている。今後も、保護者の理解を得ながら教育活動を進めていくことや学びの履歴等を活用した授業計画の作成が望まれる。
	3 授業研究・授業改善	<ul style="list-style-type: none"> * 社会のニーズや学校の教育課題等に基づく学校研究への取組 * 計画的な授業研究の実施等による授業改善への取組 * 専門性向上のための積極的取組、専門性の高い授業実践 	計画的に校内研修、授業研究が行われており、改善点の共有の機会が確保されている点は、評価できる。GIGAスクール構想によるタブレット型端末の活用については、さらなる教師の情報活用能力の向上と授業での効果的な活用方法について取り組むことが望まれる。
職業教育及び進路指導	1 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> * 組織的なキャリア教育（進路指導）への取組 * 本人・保護者の進路希望の把握、きめ細かい進路指導 * 定期的な職場訪問等による状況把握 	自己理解の取り組みは、早い段階から実施されており、今後さらに充実することが望まれる。進路支援の手引きについては、改訂版が示され、生徒・保護者や関係機関等との共有に活用することを期待する。また、進路支援の大きなフレームを図示する等、活用する中で、保護者、児童生徒にわかりやすい手引きになることが望まれる。
	2 就業体験の機会の確保	<ul style="list-style-type: none"> * 福祉・労働施策や関係機関の事業等の情報収集の取組 * 実習先、就労先等の開拓に関する積極的取組 * 作業学習等の学習の工夫・改善への取組 * 地域や産業界等の協力等による就業体験の充実 	実習先や就労先の確保に向け、職場開拓を積極的に行っている。また、今年度から配置のジョブ・コンダクターを活用し、関係機関等の情報収集を行っている。就業体験の充実として、通常の職場実習の他にチャレンジDAYを設定し、近隣の企業で実習を行っている点は、評価できる。
	3 職場開拓	<ul style="list-style-type: none"> * 地域の企業、福祉・労働の関係機関等との密接な連携 * 教職員・保護者が一丸となった職場開拓 	関係機関との連携の機会として、就労支援会議が定期的開催されている。職場開拓については、教職員が一丸となって取り組んでいる。今後は、保護者の協力も検討されることが望まれる。
豊かな心・健やかな体の育成	1 社会自立に向けた教育	<ul style="list-style-type: none"> * 互いの良さを認め合い、豊かな人間関係を形成できる幼児児童生徒を育成 * 卒業後に必要とされる力を踏まえ、各学部段階において適切に指導 	児童生徒が落ちついて授業に取り組み、教師への信頼関係も構築されている。情報モラル教育の重要性を認識し、計画的に実施されている。
	2 生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> * 幼児児童生徒理解のため保護者や関係機関と連携 * 障がいの状態等を共通理解し、組織的な生徒指導の取組 	児童生徒支援に係る会議が、定期的開催されており、関係者間で方向性を共有できる取り組みになっている。また、児童生徒の要望を校内に掲示するなど、児童生徒の意見を生徒指導に生かす取り組みがされている。
	3 教育相談	<ul style="list-style-type: none"> * 専門的な立場のスクールカウンセラー等との連携 * 教育相談等に関する知識習得や技能向上に向けた取組 	スクールカウンセラーと連携し、児童生徒の理解に努めている。
	4 特別活動	<ul style="list-style-type: none"> * 学校、地域の実態等に即した学校行事、児童生徒会活動等の取組 * 交流及び共同学習への積極的取組 	コロナ禍であったが、居住地域交流や学校間交流を効果的に進めている点は、評価できる。
	5 安全管理・医療的ケア	<ul style="list-style-type: none"> * 教職員間で迅速に情報共有する体制が確立 * 教職員・幼児児童生徒が安全に行動できる取組や環境作り * 校内の医療的ケア実施体制が整備 	医ケア室は、よく整理整頓されており、医ケアに関する主治医等との連携状況、教育内容への反映は評価できる。また、点検箇所に応じた安全点検項目が設定されているも評価できる。う歯や歯周病、肥満のデータが示されたが、今後の取り組みが望まれる。
全般	障がいの状態や発達の段階等に応じた適切な配慮	<ul style="list-style-type: none"> * 教育活動全般にわたる、障がいの状態や発達の段階等に応じた適切な配慮 	障がいの状態に応じた授業や、環境の配慮が見られた。児童生徒一人一人が、主体的・対話的で深い学びを実現するためのICT活用が望まれる。
総合評価	校長の指揮の下、教頭、ミドルリーダーが連携を取り学校経営がされている。第1回目の訪問からさらに改善が図られ、児童生徒が落ちついた教育活動が行われている。ICT機器の活用については、授業で活用をするため組織的に、かつスピード感をもって取り組むことが望まれる。今後も、校長の適切なリーダーシップのもと、好立地を生かし、地域との協働による創造的な教育実践の展開を期待する。		
校長コメント	<p>専門的かつ客観的な視点で学校運営等の貴重な指導助言を賜り、深く感謝申し上げます。今回いただいた助言等をもとに、次年度に向けて以下の取組を推進していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○カリキュラム・マネジメントを通じ、教育課程改善へ全職員が参画し、小・中・高の一貫性のある指導につなげる。 ○GIGAスクール構想のもと、ICT機器の活用推進など主体的・対話的で深い学びが実現するための授業づくりのためICT研修を通じて教職員のスキルアップを図る。 ○「進路支援の手引き」が保護者、児童生徒にとって分かりやすく活用しやすいものとなるよう更新を継続する。また本校の好立地であることを強みとし、学校・家庭・地域による目標の協働達成を行い、キャリア教育の充実を図る。 		